



2月7日(月)にある中央ランドで、すみれ組は劇の発表をします。少しずつ劇の台詞や動きが決まり、大道具や衣装などができあがってくると、「だれかに見てもらいたい!」という思いが高まり、今は、保護者の方や幼稚園のみんなに見てもらおうことを楽しみにしています。学級のみんなが揃うことが難しい時もありましたが、子どもたちの姿を温かく見守っていただき、たくさんの拍手をいただければと思います。



## 2月7日(月) 中央ランド 劇「金のがちょう」 10:40~



さくら組の時から、弁当の時間に童話のカセットテープをかけていました。その中のお話の1つに『金のがちょう』がありました。何度も繰り返し聞く中で、いろいろな人たちがくっついていく様子、効果音や歌のおもしろさに、子どもたちは興味を惹かれていったようでした。すみれ組になってからもそれは続き、弁当時に「今日も金のがちょうがいいな。」と子どもたちからリクエストをされることもありました。次第に「このお話おもしろいよね。」「この話をみんなでやってみたらいいんじゃない。」と子どもたちの会話も聞かれ、自然な流れでこの話にしようと思われていったように思いました。

実際に読んだ『金のがちょう』の絵本とテープの話の内容には、いろいろな違いはありましたが、子どもたちと相談しながら、基本的な流れは変えず、楽しいところやおもしろいところを取り入れて、すみれ組のアレンジを加えた内容になりました。登場人物は、金のがちょうの話に出てくる通りの人もいれば、別の話の主人公もいます。子どもたちのイメージや楽しさが盛りだくさんに込められています。

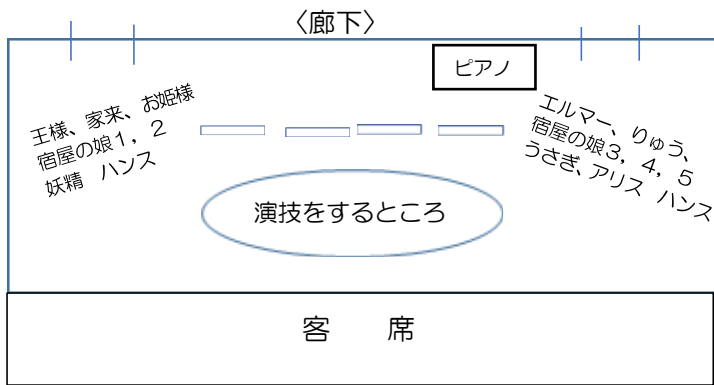
自分の衣装、面、背景の絵、カバン、座る椅子などの大道具や小道具もできる限り手作りすることを大事に、楽しみながら取り組んできました。日々進化し続けるすみれ組の『金のがちょう』です。当日は、どんな『金のがちょう』を演じてくれるのが楽しみです。

### あらすじ

すみれ王国には生まれてから1度も笑ったことのないお姫様がいました。悩んだ王様は、姫を笑わせた者と結婚させようと考えます。その話を聞いた心優しいハンスは、お姫様を笑わせようとお城へ出かけていきます。その途中に出会った妖精から幸せになれるという『金のガチョウ』をもらったことから、不思議なことが起こり続けます。森の宿屋の娘、ティーパーティーに行く途中の時計うさぎや不思議な国のアリス、どうぶつ島帰りのエルマーとりゅうなどと出会い…ハンスは、お姫様を笑わせる事ができるのでしょうか…。



＜役の待機場所＞



※みんなの部屋のピアノ側を正面にして、場所を広くして演技をします。

配役（敬称略）

- おうさま
- けらい
- おひめさま
- ハンス
- ようせい
- やどやのむすめ
- とけいうさぎ
- アリス
- エルマー
- りゅう

☆ナレーターや効果音、舞台設置や舞台チェンジなども子ども達が行います。

友達と力を合わせて



たこたこあがれ！ 作りました！

カラーポリ袋で六角凧を作りました。とてもよく上がり、子どもたちは、うれしそうに元気いっぱい園庭や校庭を駆け回っていました。いつのまにか体もぼかぼかになり、この時期の子どもたちにとって、寒さに負けないための最適な遊具になったようでした。少し難しい所は、友達と助け合いながら取り組んでいました。



等身大の鬼の絵を描きました！



グループの友達と一緒に、大きな紙に等身大の鬼の絵を描きました。どんな鬼にするか？何色鬼にするか？どんなポーズにするか？だれがモデルになるか？などを話し合い、イメージを共有しながら取り組みました。「金棒をもっている強そうな鬼だね。」と確認し合ったり、「優しい女の子の鬼だから、おしゃれにした。」と言って、イヤリングを描いたことを伝えたり、友達の話を聞いたり、描きながらの会話がとても盛り上がっていました。グループごとに個性豊かな鬼になりました。

